

令和6年度 放課後等デイサービス ピュアはーと 自己評価表

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	該当なし	改善目標、工夫している点など	備 考
体 環 境 整 備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか。	○					・ 怪我や危険なことがないように見守りや声掛けを行っている。 ・ 必要時には新棟の会議室も利用している。	1 階フロアで体を動かしたい児童と玩具で遊びたい児童両方が多い日はもう少し広いスペースが必要だと感じる。
	②	職員の配置数は適切であるか。		○				職員が手薄の日は特に職員間での声を掛け合うように意識している。	
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか。		○				・ バランスが不安定な児童が階段を昇降する際は一緒に階段を昇降するようにしている。 ・ 段差など物理的には仕方ない箇所はあるが安全確保のための意識を職員間で再度確認が必要だと思う。	
業 務 改 善	④	業務改善を進めるため職員間で課題を抽出し、解決に向けて取組み、振返りをしているか。	○					何かあればミーティング時や緊急性が高い事はその都度に伝えるようにしている。	
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか。	○					職員間でフィードバックしている。	
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やHP等で公開しているか。	○						
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。			○				現時点では実施していない。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか。	○					・ 月 1 度の職員全体で行う連絡調整会議時に定期的に行っている。 ・ 職員が講師の施設内研修の他に外部講師を招いての研修を行う。	
	⑨	活動プログラムの立案等を職員同士で相談できる環境があるか。	○					ミーティング時や業務中に話し合えている。	
適 切 な 支 援 の 提 供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○					・ 子どもからニーズを聞き出す事は難しい場合もあるが保護者や職員間で話し合いながら作成出来ていると思う。 ・ アセスメントに対する知識が必要。	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか。	○						
	⑫	活動プログラムは、色々な活動の提供を行い工夫されているか。	○						長期休みは色々な活動を提供出来ていると思う。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて課題を決めて細やかに設定して支援しているか。	○						
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○						
	⑮	その日の支援を開始する前に職員間で確認をし、支援の内容や役割分担について確認しているか。	○					外出などの危険が伴う活動時には行えている。	
	⑯	支援終了後には、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		○				・ 週1回のミーティング時に行っている。緊急時にはその日に行っている。 ・ ヒヤリハットなどもその日に伝達がないので緊急性や危険な事はその都度共有する意識を職員各々が同じレベルで持つ必要があると思う。	
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○						
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか。	○						
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか。	○					何かあった時の責任問題など難しい面もあるが月1回地域開放日を作る等地域交流の機会を増やせばいいと思う。	
	⑳	個別支援計画・支援について・障がいへの理解に関する研修を実施しているか。	○						

関係機関や保護者との連携	②①	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか。	○						
	②②	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○					迎えに行った職員がその日の申し送りを聞くなどの情報共有は出来ている。	
	②③	医療的ケアが必要な子どもを受入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか。					○		今までそのようなケースが無い為不明。
	②④	就学前の様子を保護者・関係機関との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○						契約時のアセスメントや児童によっては引継ぎの場が設けられている。
	②⑤	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。					○		
	②⑥	地域の小学校・中学校・高等学校等の児童生徒との交流や、障害のない子どもと活動する機会はあるか。		○				公園遊びで地域の児童が遊んでいる時に鬼ごっこに誘い、一緒に遊ぶ時もある。	
	②⑦	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○						
	②⑧	支援の視点から、保護者に対して助言・指導等の支援を行っているか。		○					どうしたらいいのかなどと聞かれた場合には答えているが自ら助言や指導をしたことはない。
保護者への説明責任等	②⑨	運営規程、支援の内容、利用者負担額などについて丁寧な説明を行っているか。	○						
	③⑩	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	○						
	③⑪	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか。	○						
	③⑫	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○						
	③⑬	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○						
	③⑭	個人情報に十分注意しているか。	○						
	③⑮	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のために配慮をしているか。	○						
非常時等の対応	③⑦	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル策定し、職員や保護者に周知しているか。		○					保護者に対しては周知していない。
	③⑧	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○					利用児童が活動している時に定期的に行っているが、職員のみでも定期的に行った方がよい。	
	③⑨	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○						
	④⑩	どのような場合にやむを得ず身体的拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。					○		身体拘束をしなければいけないケースがない。
	④⑪	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。					○		指示書が出るほどの重度なアレルギーがある児童がいない。
	④⑫	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか。	○						